

石川・畠田ナベタ遺跡

うねだ



(金沢)

- 1 所在地 石川県金沢市畠田東三丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年（平12）四月～二月
- 3 発掘機関 財石川県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 白田義彦・布尾幸恵
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は金沢市西部の海岸平野に位置する。周辺は、戸水C遺跡、

戸水大西遺跡、藤江B遺跡、金石本町遺跡など、古代の莊園・官衙

関連の遺跡が集中する地域
である。

本遺跡の調査は、土地区

画整理事業に伴つて実施さ
れた。きわめて規則的に配

置された大型の掘立柱建物
群を主体として構成され、

官衙関連施設と推定されて
いる。広場的な空閑地には、

- (8) 木簡の釈文・内容
- (1) □上□□
〔六十九カ〕
(83)×(28)×4 081
- (2) 「▽酒流女一石余」
160×31×3 032
- (3) □□□
〔盜カ〕
「▽須□女一石一斗」
「▽石益一石一斗」
「▽比田知子一石一斗」
091
- (4) 147×24×2 032
- (5) 170×18×5 032
- (6) 170×18×5 033

掘形3m×2m深約1mの、石川県下で最も大きい縦板隅柱横棧留
めの井戸SK-107が検出され、多数の斎串や獸骨が出土している。
遺物は須恵器・土師器が主体で、時期は九世紀～一〇世紀前半であ
る。墨書き器は「東○」が最も多く、「館」「宅万口」「射水」「×」
「☰」なども出土している。

木簡が出土したSD六七は、調査地の西端に位置する、最大幅1
0m最深3mの自然河道である。出土遺物から、掘立柱建物群とほ
ぼ同時期に機能していたものと考えられる。ほかに須恵器・木製
皿・編物・漆塗円形板・漆付着土器・貝類などが出土している。

